

わたしの主張 校内意見発表会 (その2)

7月10日(木)に「わたしの主張校内意見発表会」を行いました。前号に引き続き紹介します。

※発表原稿は生徒により「常体」と「敬体」ですが、そのまま紹介します。



「見えないルール」 3年

皆さんは、話し合いの場面で自分は違う意見があるのに、意見が言えず、大多数の意見に賛成してしまうことはありませんか？同調圧力とは、周囲に合わせないと不安を感じ、他の人と同じ行動をすることで安心感を覚えることです。特に、思春期の学生は周りを見る力が強くなると同時に、周りからの評価に意識が強く向くので同調圧力の影響を受けやすくなります。



例えば、人と違う意見を言うことに不安を覚える人は「周りに合わせないといけない。」という同調圧力がかかるため不安になるのです。

普通に一人で行動する人もいます。そういった人は、「他人にどう思われるか」よりも「自分がどうしたいか」を重視することができ、周りからの評価に振り回されづらいという特徴があります。

もっとも大事な事は、同調圧力の影響を受けていると自覚することです。自分は本当はどうしたいのかを考えると自分は同調圧力を受けているのではないかと自覚できるようになるのです。

同調圧力は周りの意見に合わせないといけないと感じてしまう、自分で作った見えないルールです。

自分もこのルールを認識することで、大多数の意見に「普通」という基準を置くのではなく、自分がどうしたいかを「普通」という基準にでき、もっと好きにもっと自由に生きられるようになったと思っています。

「同調圧力」について自分なりに分析してまとめました。要旨なのでかなり省略していますが、具体的な事例が網羅されています。「同調圧力」はプラスにもマイナスにもなる。思春期年代に限らず、大人も「同調圧力」に悩まされていることがあります。他の意見を参考にしても、最後は「自分がどうしたいかを『普通』にする」。この提案がとても大切だと思います。

「SNSは人を幸せにするのか」 3年

現代の私たちにとってSNSは、もはや単なる娯楽ではなく、生活の一部として深く根付いている。SNSは人を幸せにするのか、それとも不幸にしてしまうのか。この問いは、SNSが生活の中心に入り込んだ今だからこそ、改めて考える価値がある問題だと言える。



まず、SNSが人を幸せにする側面として最も大きいのは、人とのつながりを広げ、維持する力である。

さらに、SNSは自己表現の場としても大きな役割を果たしている。自分の作品や考えを発信し、それに対して反応が返ってくことで、自分の存在が誰かに届いているという実感を得られる。

また、SNSは情報の共有や助け合いの場としても機能している。

一方で、SNSには人を不幸せにする側面も確かに存在する。特に深刻なのは他者との比較

による自己否定である。

また、SNS 上での誹謗中傷や炎上も深刻な問題だ。匿名性が高いことで、心ない言葉が簡単に投げつけられ、精神的に追い詰められる人も多い。さらに、SNS の利用時間が増えることで、生活リズムの乱れや学業・仕事への悪影響が生じることもある。

以上のように、SNS には人を幸せにする面と不幸せにする面の両方が存在する。つまり、SNS そのものが幸せを生むのではなく、使い方次第で幸せにも不幸せにもなるということだ。私たちが SNS と向き合う際に大切なのは、他人と必要以上に比較しないこと、自分にとって心地よい距離感を保つこと、そして情報に振り回されない姿勢を持つことである。

今や SNS は生活から切り離せないものになっています。それを「幸せ」にするか「不幸せ」にするかの観点から整理してくれました。そして最後の「使い方次第で幸せにも不幸せにもなる」ことを自覚していけるかにかかっています。そのために「比較しない」「心地よい距離感」という2つのキーワードをみんなで自覚したいものです。

※以下の生徒は学級代表に選出されましたが、当日欠席でした。この場での紙上発表とします。

「やりたいこと、やりたくないこと」 2年

今の私には、やりたいこととやりたくないことがあります。そして私は、その間を行き来しながら過ごしています。

やりたくないこと。それは私にとっての部活です。ただ、そうひとくくりにしてしまうとまるでマイナスのように聞こえますが、もちろん部活の中でもやりたいことがいろいろあります。

私は陸上競技部に所属していますが、初めて「やりたい」と思うものに出会いました。それは「棒高跳」です。ある理由をきっかけに、私は棒高跳を続けたいという気持ちとやめたいという気持ちの両方に囚われてしまいました。どちらかといえばやめたい。でも、やめたらどうなるんだろう。こんなにいろいろ迷うくらいなら部活をやめたい。ただひとつ変わったことといえば、棒高跳、やりたくないことへの考え方、捉え方です。

やりたくないことに対しての気持ちなんて、「やりたくない」それ以上も以下もないように思ってしまうがちです。しかし、それだけではないと私は思います。やりたくないを裏返すとやりたいです。この二つは反対の意味をもつ言葉ですが、全く別のものではないように思います。最初はやりたくないことも時間が経つにつれてだんだんと楽しくなってくるということです。少なくとも、この先もやりたくないままで終わるか、楽しくなってくるのか、未来のことは誰にも分からないのです。

また、私は、やりたいことは後悔しないようにやることを心がけています。しかし、そのためにやりたくないことをすっかりやめてしまうことは正解でしょうか。もしかしたら、やりたくないことに取り組んだことで、やりたいことがより楽しいものになるのかもしれない。



誰しも、事の大小はあれ、「やりたいこと」「やりたくないこと」の葛藤の中で生活していると思います。自分の「やりたいこと」を見付けられたことは幸せです。取組の中で、心が揺れることもあります。そんな時、どのように気持ちをコントロールするか、そのヒントを提案しているように思います。葛藤は選択の場面でもあります。どちらを選ぶか、どのように選ぶか、選ぶ理由はなどを考えながら、生活することはとても大切なことだと思います。



学校代表の発表は、7月29日（水）の始業式で行います。代表者は8月18日（火）に段十ろうで開催される「郡市わたしの主張発表会」に参加する予定です。